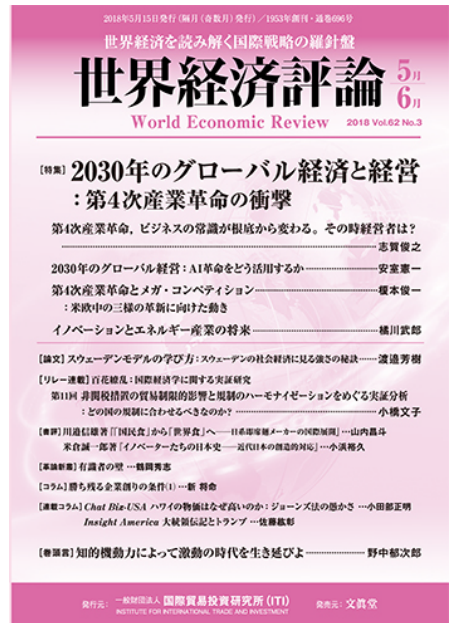


本論文は

# 世界経済評論 2018年5/6月号

(2018年5月発行)

掲載の記事です



## 世界経済評論 定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料  
OFF



定期購読  
期間中

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

### デジタル版バックナンバー 読み放題!!



世界経済評論 定期購読



☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。  
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp  
雑誌のオンライン書店

## 大統領伝記とトランプ

佐藤 紘彰

「アメリカの歴代大統領に対する高い興味には驚くべきものがある。毎年いずれかの大統領についての伝記が出版され、しばしばベストセラーになる」——と、ほくがこの現象をジャパン・タイムズのコラムに書いたのはコラムニストに慣れ始めた2002年1月だった。記事には、前年（2001年）に出たDavid McCulloughの“John Adams”, Edmund Morrisの“Theodore Rex”, それにMichael R. Beschlossの“Reaching for Glory”をまず挙げていた。ジョン・アダムズは第2代大統領、『Theodore 王』は第26代大統領セオドア・ルーズベルトのこと、二冊ともにベストセラーになった。『栄光を求めて』が扱ったのは第36代大統領リンドン・ジョンソンである。

## 架空の人による「回想録」

三名の著者のうちデイヴィッド・マカラーは、この著作の以前セオドア・ルーズベルト（1981年）と第33代大統領ハリー・トルーマン（1992年）を扱っており、アダムズ伝記と同じく賞を得た。エドモンド・モリスは最初の『セオドア・ルーズベルトの台頭』（1979年）で賞を得て、それを読んで感銘したロナルド・レーガンが1981年大統領になると正式の伝記作家に指名された。そして、ホワイトハウスの出入りは自由、レーガンにインタビューするのも自由、個人、公式の文書は全て閲覧する「特権」を与えられた。

ところが、長らく伝記を完成することができず、レーガンが任期を終えて10年後の1999年によろやく出版されると、架空の人による『レーガンの回想録』という型破りの伝記だった。モリスによると、理由はレーガンが全く正体の掴めない人だからということだったが、一応ベストセラーに上がったものの、多くの批判を受けて、間もなくリストから落ちた。

マイケル・ベシユクロスは「presidential historians（大統領歴史家）」と呼ばれる類の大学教授で、『栄光を求めて』の前に数名の大統領についての本を出していた。この本は、ジョンソン大統領が密かに自分の会話をテープで記録していたことが表面化、それに基づいている。ただし、ニクソン大統領が、ウォーターゲート事件の最中にその存在が明らかになって、それが直接弾劾につながったのに対し、ジョンソンのテープが明らかになったのは死後かなり経ってからだった。

ほくのコラムは「どのようにも変わる歴史的判定（The plastic nature of historical judgment）」という題だった。それは南北戦争の南部大統領Jefferson Davisの伝記が新たに二冊出て書評で好意的に扱われたからだ。デイヴィスはそれまでもいくつも伝記が書かれていたが、勝利した北部の「真面目な」書評に取り上げられることは少なかったらしい。何しろ、奴隷制度を維持すべく北部諸州に戦争をけしかけて敗北した側の賊将だった。昨年は、デイヴィス大統領やリー将軍の銅像が急速に問題となり、そのいくつかが除去されたことは記憶に新しい。

アメリカでの大統領に対する関心は相変わらず衰えていない。ベストセラーの目安に使われるニューヨーク・タイムズ紙週別リストで大統領に関するものを見ると、今年1月28日付のハードカバー・ノンフィクション上位15冊では5冊、うち2冊が伝記、2月4日では6冊、うち2冊が伝記である。

まず伝記を見ると、二つのリストとも、一つは単に“Grant”と題して第18代大統領を、もう一つは“Andrew Jackson and the Miracle of New Orleans”と題して第7代大統領を扱う。ただし、グラントは普通の意味の伝記だが、ジャクソンの方は人生の一部だけに焦点を当てる。1月末のリ

ストでは、前者は6位、リストに上がって14週目、後者は7位、12週目。

グラントは、周知の通り、南北戦争で南部のリー將軍を打倒して北部（連邦政府）を勝利に導いた將軍である。加えて、死の直前、喉頭痛に苦しみながら書いた『回想記』は名作だ。しかし、リンカーン大統領の暗殺とともに副大統領から大統領に昇格したアンドリュー・ジョンソンと同じく歴代大統領のなかでも格付けが低い。それは、ジョンソンが無能の上、奴隷廃止を推進する政策を蔑ろにしたためアメリカ史で初めて弾劾された（ただし無罪）のに対し、ついで大統領に選ばれたグラントは8年の政権中、腐敗と汚職を横行せしめたことによる。新たな伝記の著者 Ron Chernow の目的はこの腐敗・汚職は誤解だということを示し、名誉を挽回することにある。

一方、ジャクソン大統領は、陸軍少将だった1815年1月、対英戦争（「1812年戦争」）の中でニューオーリンズを攻撃した1万人の英国軍隊を5000人の軍隊で撃退、翌月戦争が終結した。本はその「奇跡」に焦点を当てる。ちなみに、ジャクソンは大統領格付けは一般に高いが、昨今、奴隷制度維持側に立った歴史的人物の批判が高まる中で、ジャクソンが奴隷制度支持者であったこと、また対英戦争の中でもインディアン撲滅戦争を追求、後にそれを法制化したため、その歴史的名声を見直すべしという意見が出てきている。

### トランプは「泥棒政府」

ニューヨーク・タイムズ紙のベストセラーリス

トで、リスト外から1月末に第1位に躍り出たのは Michael Wolff の “Fire and Fury” だ。これはトランプが大統領になってから、高級補佐官を筆頭にトランプを「白痴 (idiot)」「愚鈍 (moron)」「幼稚園児 (kindergartner)」などと呼ぶなど、ホワイトハウスの職員間の混乱やいがみ合いを記録する暴露物である。

同じリストの15位（6週目）は、エール大学臨床精神医学者 Bandy X. Lee が心理分野の医者27名の論考を集めた “The Dangerous Case of Donald Trump” だった。コリアン系女性のリーは昨年末には議会に招かれて11名の民主党議員と1名の共和党議員に会い、「トランプは精神的に崩壊の状態にある」と説明した。その後も議員と会っているという。

2月4日のリストで突然2位に入ったのは David Cay Johnson の “It’s Worse Than You Think” と題する本である。著者ジョンソンは大学で税制などを教えたこともあるジャーナリストで、アメリカの税制がいかに裕福な階級をますます裕福にする歪んだものかについて数冊の本を出している。その一環としてトランプを追求し始めて30年近くといい、2016年大統領選挙中には “The Making of Donald Trump” を出してベストセラーになった。新著では、トランプがスラム街の悪徳家主 (slumlord) から、カジノ倒産、ホワイトハウスまで、自分の財産を肥やすためには手段を選ばない男であり、その政権は「泥棒政府 (kleptocracy)」に他ならぬと断ずる。

さとう・ひろあき 日本誌歌英訳、文筆家